

現場研修 『みなと資料館、小樽港北防波堤の見学』 報告

平成21年度の北海道コンクリート診断士主催「現場研修会」を下記の要領で行いました。

日時:平成21年9月25日

見学先:

- ①「小樽港北防波堤と廣井勇について」
小樽港湾事務所・会議室
 - ②北防波堤(乗船)
 - ③みなと資料館
 - ④斜塊ブロック、ブリケット、ケーソン製作用斜路
- 参加人数:25名

次に、杉山課長から「コンクリート長期耐久試験など」についてお話がありました。

コンクリートの品質向上として、火山灰の使用、セメントの試験方法の説明がありました。長期耐久試験に関するモルタルブリケットや試験器具、試験結果の説明もいただきました。

終了後、参加者は3班に別れて、現場研修②・③・④を行いました。



②北防波堤(乗船見学)



①「小樽港北防波堤と廣井勇について」会議室



北防波堤の見学は、監督測量船『ひまわり』に乗船します。出航後、港内を大きく時計回りに巡航し、前半は埠頭や施設の説明がありました。北防波堤に到着し、徐行にて100年間形状を保っている防波堤下部の斜塊ブロックを見学しました。

その後、島防波堤・南防波堤を見学しながら小樽港湾事務所に戻りました。

まず始めに、小樽港湾事務所の会議室にて、小暮所長より「北防波堤建設の経緯や廣井勇の功績など」についてのお話がありました。

当時の小樽港は日本海側物流拠点として重要な役割を持っていました。波浪から港を守るために明治30年に北防波堤が着工し明治41年に完成、工事の陣頭指揮を行ったのが小樽築港初代所長の廣井勇氏で、品質向上や構造安定のために、新工法を導入したそうです。南防波堤は廣井勇氏の後を継いだ伊藤長右衛門が指揮を取り、完成させたとの事です。

③みなと資料館



「おたるみなと資料館」では、初めに小樽港建設のビデオ学習がありました。その後、モルタルブリケットの作成と試験方法の説明や、コンクリート塊積畳機<タイタン号>などの説明がありました。

展示品には、小樽港建設に関する写真・模型・工具などあり、参加者は技術的な質問をし、説明を熱心に聞いていました。

④斜塊ブロック、ブリケット、ケーソン製作用斜路



まず、資料館の横に設置している斜塊ブロック(実物)の見学をし、大きさなどの説明を聞きながら触ってコンクリートの質感を確認しました。



続いて、敷地内の倉庫にて、長期耐久試験に使用するブリケットを見学、製作の歴史や保管方法などの説明がありました。

ケーソン製作用斜路の見学では、製作できるケーソンの規模などの説明がありました。この形式は道内でここだけということで、貴重な施設の様です。

北海道コンクリート診断士会主催のとして初めての現場見学でした。ケガなどもなく無事終わることができました。

今回の研修では小樽港湾事務所から小暮所長を初めとする7名の方々が研修担当をし、丁寧な説明をして頂きました。参加者の方々も港湾建設の技術に関心を示し、熱心に説明を聞き、現場を見学していました。

小樽港湾事務所の皆様、参加者の皆様、ご協力有難うございました。

(文責:神田 貴尚)